

様式 3 技術開発課題完了報告書

青森営林(支)局

課題名	ホニエウシカによる造林地被害防除試験					
課題区分	造林場自主課題	開発期間	98年 54~58	担当	大船渡営林署	
目標	ホニエウシカによる被害状況を分析し、その被害防除技術を確立する。					
結果	ポリネット被覆と漁網柵設置の併用は効果があるかに見えたが、「詳細柵」に記載のとおり防除技術の確立は極めて困難である。					
施業及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	試験の方法					
	樹種					
	林齢	年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	ha当たり本数	本				
材積	m ³					
開発経過と調査内容						
<p>(1) 53年度</p> <p>ア. 調査区を設定(3.10ha)</p> <p>イ. スギ普通苗にポリネット被覆をほどこした。</p> <p>(2) 54年度</p> <p>ア. 対象区(無処理)は595本、全本数が被害を受け枯死又は枯死寸前であるのに対し、ポリネット被覆区は6930本、被害率22%であった。</p>						

1. 当初計画の他に54年12月大船渡農林事務所で作った防護漁網を設置した。

(ア). 名称 合成繊維漁網(網目90mm、高さ1.8m~2.0m)

(イ). 樹種別面積 スギ456ha ヒノキ281ha

(ウ). 周囲延長 3,100m

(3) 55年度

ア. 54年度設置した防護網について調査した。

(ア). 漁網柵の実用性及び食害の有無
漁網及び漁網を固定したロープも食いぢざり、防護柵内への侵入が観察され、有効な被害防除方法とならなかった。食害はシカの生息状況により程度の差があるように思われる。

(イ) その他観察事項
樹高と食害状態
樹高が1.2m程度以上のものは側枝のみ被害を受け、頂芽は健全であるので、工長成長の促進が防除法として考えられる。また漁網E二重張りにした箇所については侵入が認められない。

1. 大苗植栽
准着、労力等から適切でない。

ア. 漁網柵とポリネット被覆と併用による方法の実施。

(4) 56年度

ネットの実用性検討及び食害、生育調査

ア. 漁網柵の実用性及び食害の有無
被害時期は晩秋から早春までであることから漁網柵を12月に設置し、翌年5月まで観察した結果、食べ物があればどんな困難な状況でも食にありつこうとする野性動物の本能から、漁網及び漁網を固定した49mmナイロンロープを食いぢざり、穴をあけて防護柵内に侵入し、スギ、ヒノキを食害している。網は補修した。

1. スギ大苗植栽

枝葉被害の際引き抜きや根が引き抜かれるなどにより活着が困難である。

- ア. 漁網柵設置とポリネット併用
二重に防護をはかったため、被害は漁網柵のみより少ない。
- イ. 生育調査
漁網柵のみの箇所と併用箇所との対比において、漁網柵箇所は伸長において16%下まわった。

(5) 57年度

ネットの実用性検討及び被害調査の結果前年度とほぼ同様であった。ただし、生育は漁網柵内で一部被害が併用箇所よりも36%無処理箇所は46%下まわった。

(6) 58年度

ネットの実用性検討及び被害調査の結果56年度とほぼ同様であった。ただし、生育は漁網柵設置箇所より90%無処理箇所は28%下まわった。

2. 評価

(1) ネットの実用性

- ア. ネットの実用性はこれまでの結果からある程度効果があったように見られるが、造林木に被覆したネットにまたたき風が吹くと他に食べ物が残ると、ネットを口で引き抜き被害している状態からすると、当初期待していたような効果はないものと判断される。
- イ. 取り付けたネットは冬期間を経過すると破損が著しいこと、被覆したままにしておくと造林木の成育に支障となるので着に取外しが必要となり、毎年取り付け、取外しが

必要である。

その結果 ネット材料費、労賃で53,500円/ha(年当り)ほどかかるので経済的な負担が大きい。

(2) 漁網柵の設置の実用性

- ア. 現在材料費は不用品使用のため、ゼロであるが設置箇所が多くなると新規購入費もかかる。柵3,100m 高さ1.8~2.0m 延雇用人員73人で413,800円の労賃がかかっており、労賃のみで/ha当り約3,000円かかる。
- イ. 被害防除試験の結果、漁網柵とポリネットを引き抜き或いは漁網柵を食いちぎって侵入するので経費が多くかかる割合に、防除効果が乏しい。

3. 普及指導

以上のことから、ポリネット被覆や漁網設置による効果は、期待できないので今後この地域における人工造林にあたっては、さらに被害され易い、アカマンノスギ・ヒノキの植栽は見合せケヤキ・カラマツ等の植栽に切り替えが必要と思われる。